

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同
計算科学シミュレーションと工学設計分科会
計算音響学小委員会（第26期・第3回）議事要旨

令和7年1月20日

日時：令和7年1月20日（月）13：30～14：30

会場：遠隔会議（Zoom、主催会場：電気通信大学）

出席者：金田千穂子、坂本真樹、大久保寛、岡村宏、坂本慎一、嵯峨山茂樹、篠崎隆宏、戸井武司、西口磯春、萩原一郎、山本崇史、横山真男、吉村卓也（13名）

欠席者：満倉靖恵、饗庭絵里子、石濱正男、雉本信哉、小机わかえ、西脇眞二、松本敏郎、矢田部浩平、若槻尚斗（9名）

記録：山本崇史

配布資料：資料1. 前回小委員会議事要旨

資料2. 総合工学委員会コメント

資料3. 日本学術会議学術調査員コメント

資料4. 申出書（案）

資料5. 第26期見解（案）

議題：

（1）前回議事要旨の確認

修正・追記なく承認された。

（2）申出書（案）指摘事項について

- ・タイトル「バーチャル音響環境研究所」という名前が紛らわしい。
⇒「新たな音響学の学術領域創生とそれを推進するコンソーシアム」に修正する。
「新たな音響学」の定義を具体的に書いたほうがよいのでは？
- ・「データモデルを規範とする開発スタイル」⇒萩原先生に修正をお願いする。
- ・「当たり前品質」⇒「当たりの品質」に変更する。
- ・「バーチャルシミュレーション」⇒バーチャルを削除する。
- ・2章と3章の目次構成（順番）⇒2章と3章を入れかえる。
- ・「骨子案の目次構成」⇒第26期での進展を追加する。
- ・「音に関する分析」⇒「音に関する研究」とする。

岡村委員よりコメント：

分野を超えて音に関する研究課題に取り組むことを考えており、デジタルツインなどのよ

うなバーチャルな環境を共有しながらすすめることを昨期は考えていたので「バーチャル」が入っている。

(3) 見解(案)について

- ・各委員のご所属は提出前に確認・修正する
- ・タイトル変更に伴う修正は萩原先生に願います。
- ・音響をキーワードに学際領域に取り組むのは理解できるが、波及効果が分かりにくいので、岡村先生が策昨期に作成された図を取り込む。
- ・フランス国立音楽音響研究所(CRCAM) ⇒ 略称を IRCAM に修正する。
- ・「人間に与える影響までを考慮したシミュレーションという包摂的な意味合いを技術の基礎を義務教育において習得させるべき」⇒ 「人間に与える影響までを考慮したシミュレーションの基礎を教育において習得させるべき」に修正する。もう少し具体的に書くと分かりやすい。

(4) 今後の進め方など

申出書を修正し、事務局に提出する。

見解(案)目次を見直し、必要と思われる項目を追加する。

事務局に提出する前に幹事会を開催し確認する。2月上旬を予定している。

第4回小委員会は申出書(案)に対するフィードバックをいただいた後に開催する予定。

日程調整は若槻先生に願います。

以上